

## キーワード6 叱り方

日ごろから、教師に対して反抗的な態度をよくとるMさん。

ある日、学校に持って来てはいけない携帯電話を持っているところをN教諭に見つかり、指導を受けた。

Mさん：「返せよ。おれの携帯だろ。勝手に開くなよ。」

N教諭：「何だ！その態度は。反省する気があるのか。」

Mさん：「もういいよ。放っとしてよ。」

N教諭：「もういいよだと！お前のそういう態度を見るとむかつくんだよ。悪いという気持ちが少しでもあるのか。ええっ！」

N教諭は時間がなかったのでそのままMさんを帰したが、MさんはN教諭の指導に納得がいかず、次の授業でも興奮状態が続いた。

そこで、担任が指導にあたることになった。Mさんは、「N先生は、他学年の先生だし、教えてもらったこともない。おれのことも何にも分かっていないのに、はじめからあんな風に怒鳴るなんて、こっちの方がむかつくよ。」と言った。

担任はたとえ他学年の先生でも、悪いことは悪いと指導するのは当然であること、自分の過ちを認めて反省しなければならないことを話したが、Mさんには全く通じなかった。



事例のように子供をうまく叱れない教師が、子供の心を傷つけてしまうことがあります。

### 三つのWを大切に

子供を叱る際に、全体の前で叱ったことが、子供のプライドを傷つけ、教師と子供の関係に深い傷を残すことがあります。逆に、全体の前で叱ることに意味のある場合もあります。

叱る時には、When(どのようなとき)、Where(どのような場で)、Why(なぜ叱るか)の三つをその場の状況に応じて配慮することが大切です。

### その子のために叱る

教師の叱りに次の三通りが考えられます。

- ① **教師中心の叱り方**…「お前のために私のメンツがつぶれた。」などのように、教師が自分のために子供を叱る姿勢です。これは、叱るのではなく、教師の感情による怒りの表れです。
- ② **他の子供中心の叱り方**…「校則違反だ!」「お前のためにみんなが迷惑している。」などのように、規則や学校・学級の全体の都合だけで叱る姿勢です。この姿勢だけでは、子供の反発を招くだけです。
- ③ **子供中心の叱り方**…単に叱るだけの言葉ではなく、その叱責に子供を本当に気遣い、心配している教師の気持ちが込められている姿勢です。教師がこの姿勢を基本に、毅然たる態度で、規則を守ることの大切さや他人に迷惑をかけない行動をとることなどを指導することが大切です。日ごろの子供とのかかわりあいの深さに関係なく、このような叱り方をすると子供は納得し、叱責を成長の契機とします。